

平明の会 宮木 健 議員

神戸地区のこれからについて

(質問) 中勢バイパス、北勢バイパスが進められている中、新たに鈴鹿亀山道路の計画も持ち上がり神戸地区周辺は将来大きな交通拠点となる地域であるが、都市マスタープランにおける位置付け、それに伴う治水・浸水対策また産業政策はどのように考えているのか。

(答弁) 平成28年に公表目標としているマス

タープランでは、都市拠点として位置付けしている。道路整備も現在神戸七丁目地内県道四日市鈴鹿環状線の整備が進んでおり、引き続き協議して早期実現に向けていく。治水についても金沢川整備を進めるとともに周辺雨水幹線のうち先行整備可能なものを精査して進める。これらの整備が進む状況を見据え本市に経済効果をもたらす中心地区として捉え、産業面の調査を進めていく。

その他の質問 ○子ども・子育てについて

無所属 森 雅之 議員

下水道事業について

(質問) 鈴鹿市の公共下水道事業について。

(答弁) 今後、国においては、概ね10年で公共下水道整備を概成させることを目標としている。できる限り下水道の整備促進に努める。長期計画においては、人口減少などの社会情勢や経済情勢の変化は、下水道経営に大きく影響するこ

とから、下水道の全体計画の再検討が必要。人口密度の比較的低い区域について、公共下水道による整備から、別の手法による整備について検討をしている。こうした施設整備の考え方は、持続可能な下水道経営にとって、有効な手法の一つである。下水道事業計画の見直しに関しては、地域住民への周知および理解を求めていく必要がある。また、低コストの技術導入や発注方法によるコスト縮減などの検証が重要であり、慎重に対応していきたい。

リベラル鈴鹿 板倉 操 議員

外国に繋がる子どもたちの学力保障

(質問) 1990年の入管法改正により日系外国人の在留資格の大幅な緩和で家族での定住が通常となり、学校現場に日本語が分からない子供が急増した。本市ではJSLバンドスケールと言うシステムを確立し全国的に注目されてきたが、現在は多国籍化が進んでいる。このような中で現在の問題点や課題は何かを聞きたい。

(答弁) 外国人人口が減っても児童生徒数は減らず、666人在籍している。国籍は24カ国となりアジア圏からも増えている。システムの確立で成果はあるが、日本語で学習活動に参加できる力をつけていくことは大きな課題である。人的配置も十分とは言えず国や県にも要求している。日本で進路選択する子どもが多く、保護者に日本の教育体制を理解してもらうことも重要である。

その他の質問 ○公立幼稚園の行方

緑風会 今井 俊郎 議員

獣害対策について

(質問) 獣害は山の麓での発生と思われがちだが、既に市内全域でも現れており餌を求めて生活圏を広げてきている。専門知識を持った外部機関を活用するなど早急の対策が必要ではないか。

(答弁) 三重県農業研究所の研究員がコンサルタント的役割を担ってさまざまな助言を頂いている。また、本市の職員も獣害対策指導者育成講

座に参加して、専門的な知識と実践を行う技術を習得している。本年度の初めての取り組みとして、西部3地区の農業者や役員の皆様と農地を巡回し集落点検を実施し集落ぐるみの取り組みを強化した。本年度は国の交付金を活用し大型捕獲装置を導入する予定である。この大型捕獲装置の導入にも、三重県農業研究所の助言を受けながら、獣害対策の専門チームとして進めていきたいと考えている。

その他の質問 ○すずかフェスティバルについて